

調査対象物質	分析法フローチャート	備考
<p>[7]α-シアノ-3-フェノキシベンジル=2-(4-クロロフェニル)-3-メチルブチレート (別名: フェンバレレート)</p>	<p>【底質】</p> <p>底質試料 湿泥 (乾泥換算約10g) アスコルビン酸 20mg</p> <p>抽出 アセトン 50mL 振とう10分間 超音波10分間</p> <p>遠心分離 3,000rpm</p> <p>クリーンアップ spike 添加 エスフェンバレレート-d₇ 10ng</p> <p>2回繰り返す</p> <p>希釈 5%塩化ナトリウム水溶液 500mL</p> <p>振とう抽出 ヘキサン 100mL、10分×2回</p> <p>脱水 無水硫酸ナトリウム</p> <p>濃縮 ターボバップ 1mLまで</p> <p>カラムクリーンアップ LC-Florisil 1g/6mL 予備洗浄:ヘキサン 10mL 妨害物質除去:ジエチルエーテル/ヘキサン(3:97) 10mL 溶出:ジエチルエーテル/ヘキサン(10:90) 10mL</p> <p>濃縮 ターボバップ 1mLまで</p> <p>GC/MS-SIM-EI</p> <p>シリコン spike 添加 ベンゾ[e]ピレン-d₁₂ 10ng</p> <p>注1) カラムクリーンアップにおいて、妨害物質除去のジエチルエーテル/ヘキサン(3:97)を5mLに、溶出をエチルエーテル/ヘキサン(3:97) 5mL及びジエチルエーテル/ヘキサン(10:90) 10mLに変更して実施された例があった。</p> <p>注2) 活性炭カートリッジ又はシリカゲルカートリッジ等によるカラムクリーンアップを追加して実施された例があった。</p> <p>「平成19年度化学物質分析法開発調査報告書」準拠</p>	<p>分析原理: GC/MS-SIM-EI</p> <p>検出下限値: 【底質】 (ng/g-dry) [7] ※1.5 ※は光学異性体ごとの検出下限値の合計とした。</p> <p>分析条件: 機器 GC: Agilent 6890 MS: JMS-Q1000GC K9 カラム SLB-5ms 30m×0.25mm、0.25μm Rtx-5MS 30m×0.25mm、0.25μm</p>